

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

目 次

(前文) 大学の基本的な目標

I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

- 1 中期目標の期間
- 2 教育研究上の基本組織

II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

- 1 教育に関する目標
 - (1) 教育の成果に関する目標
 - ア 学士課程の目標
 - イ 専攻科の目標
 - ウ 修士課程の目標
 - (2) 教育内容等に関する目標
 - ア 学士課程の目標
 - ①アドミッションポリシーに関する目標
 - ②教育課程に関する目標
 - ③教育方法に関する目標
 - イ 専攻科の目標
 - ①アドミッションポリシーに関する目標
 - ②教育課程に関する目標
 - ③教育方法に関する目標
 - ウ 修士課程の目標
 - ①アドミッションポリシーに関する目標
 - ②教育課程に関する目標
 - ③教育方法に関する目標
 - (3) 教育の実施体制等に関する目標
 - ア 教員の配置
 - イ 教育環境の整備
 - ウ 教育の質の改善、教育研究システムの改善
 - (4) 学生への支援に関する目標
- 2 研究に関する目標
 - (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標
 - (2) 研究実施体制等の整備に関する目標
- 3 社会貢献に関する目標
 - (1) 教育機関との連携
 - (2) 地域社会との連携

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

(3) 国際交流の推進

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- 1 運営体制の改善に関する目標
- 2 教育研究組織の見直しに関する目標
- 3 人事の適正化に関する目標
- 4 事務等の効率化・合理化に関する目標

Ⅳ 財務内容の改善に関する目標

- 1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標
- 2 経費の抑制に関する目標
- 3 資産の運用管理の改善に関する目標

Ⅴ 自己点検・評価及び該当状況に係る情報の提供に関する目標

- 1 評価の充実に関する目標
- 2 情報公開等の推進に関する目標

Ⅵ その他業務運営に関する目標

- 1 施設設備の整備・活用等に関する目標
- 2 安全管理に関する目標

（前文）大学の基本的な目標

都留文科大学の「文科」とは「人文科学研究」を意味する言葉であるが、多様な地域から集まった学生たちが、共に「人文科学研究＝人間探求の学問」を学び、地域の教育や文化、福祉の向上のために働くというのが一貫した理念である。

社会のグローバル化・情報化の進展に伴い、知の拠点である大学に対しては、時代の変化に迅速に対応できる専門的な知識のみならず幅広い教養を備えた職業人、社会人の育成という役割が求められている。

このような人的資質、能力の向上及び育成に対する社会的要請に応えるべく、学訓「菁莪育才」（せいがいいくさい）※の精神に基づきこれまでの伝統と特色を生かした教育と研究の充実を機軸に据え、**地域に開かれた大学として、豊かな人間性と幅広い教養及びグローバルな視点と高い専門性を有する人材を育成するとともに、優れた研究を発信することにより、我が国の高等教育及び学術研究の向上に貢献することを目指す。**

また、21世紀における大学間競争を力強く勝ち抜き、「教育首都たる」の核となりうる魅力ある大学として存続していくことを使命として、地域や市民、学生のニーズに的確に対応し、その期待に応えられるよう自主的・自律的な大学運営を基盤に、常に点検と見直しを図りながら、地域とともに歩む大学として常に**教育研究活動の活性化を図りつつ**更なる飛躍を目指す。

※「菁莪育才」
初代学長諸橋轍次が、学訓として選んだ言葉。『詩経』（儒教の教典の一）に「菁菁者莪」と題する詩がある。その序文に、「菁菁者莪、樂育才也」（菁菁者莪は、才を育むを楽しむなり）とあるように、社会有為の人材を育成する楽しみを詠んだものと理解されている。「莪」は、和名つものよもぎという植物、「菁菁」は青々と同じで、植物が勢い良く生い茂る様子を形容した言葉であり、「菁莪育才」の4字には、「つものよもぎが勢いよく成長するように学生が成長して欲しい」との願いがこめられている。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成21年4月1日から平成27年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究上の基本組織

本学は、この中期目標を達成するため、教育研究上の基本組織として、下表に記載する学部及び大学院を置く。

学部	文学部
専攻	文学専攻科
大学院	文学研究科

II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

ア 学士課程の目標

幅広い人間探求を行うことを目的として、従来の教員養成教育に重点を据えるとともに、その他様々な分野で活躍できるよう、幅広い教養と総合的な判断力を養い、豊かな人間性の中に自立性、積極性を併せ持った人材の育成を目指す。

卒業後は優秀な人材を県内外へ輩出し、就職（教員採用を含む）に強い大学として、また就職後の卒業生について社会から高い評価が得られるよう、社会的評価の確立に努める。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

ア 学士課程の目標を達成するための具体的方策

- 各学科を通し、基礎学力の充実を図るとともに、学際的な視点で豊かな教養と課題解決能力を身につけさせる。
- 学生に自分の専門分野を中心として、他分野でも発展可能な基盤教育を行い、在学中、あるいは大学卒業後に必要とされる知識・分析力・企画能力・職業倫理を身につけさせる。
- 現実的な課題に対応できるよう、地域に学ぶことを重視し、実践的総合的な教育を充実する。
- 学生の実践的・社会的コミュニケーション能力の育成を図る。
- キャリア開発講座やインターンシップ等キャリア教育の更なる充実を目指し、組織的な取り組み及び環境体制について整備充実を図る。
- 卒業生の就職後の意識調査（教員であれば現状の問題等）や就職先の各機関等から意見を聞き教育の成果や効果を明らかにし、今後の目標達成への取り組み体制に活用していく。

指標例	・教員、公務員採用者数 ・進級率（留年率） ・就職率
-----	----------------------------------

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

イ 専攻科の目標

教育実践と結びついた研究を基に学部教育（初等教育学科）の基礎の上に、専門性をさらに高め、学校現場における様々な課題に対応できる高度な実践的指導力を有する小学校教員を養成する。

ウ 修士課程の目標

研究水準の向上及び教育研究体制の充実と学部教育との連携を図り、高度化・複雑化している現代社会にあって、柔軟に対応しうる幅広い視野と先見性を持った社会人を養成する。

将来的に研究者になることを希望する大学院生には、研究者としての研鑽を積ませ、研究の発展を促進する。

教職を目指すものに対しては、教員養成を機軸に据えた大学として、新たな社会的要請に対応すべく、教育理論と実践的指導力を兼ね備えた人材を育成する事を目指し、今後の大学院のあり方を踏まえ教育研究体制を検討する。

また、現職教員の再教育を行い、専門職としてふさわしい資質の能力の涵養を図る。

(2) 教育内容等に関する目標

ア 学士課程

① アドミッションポリシー※に関する目標

本学の教育理念・目標等を踏まえた学生像に沿って受け入れ方針を明らかにし、**都留文科大学の魅力**を広く周知するとともに、バランスの取れた基礎学力を有する学生、さらに、得意分野を有する学生の受け入れを促進する。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

イ 専攻科の目標を達成するための具体的方策

（文学専攻科）

○初等教育学科における研究・教育の基礎の上に、特に学校教育学を中心に教育学に関する専門的な事項を教授し、その研究を指導する。

○教員としての高い資質力を現場へ輩出するため、実践的指導力につながる体系的・総合的な教員養成プログラムの開発を検討する。

○育成した人材については教員を志望するものがほとんどであるところから、教員志望者の全員採用を目指した指導体制を充実させる。

ウ 修士課程の目標を達成するための具体的方策

○現代社会の多様な課題に応えうる人材を育成するため教育研究組織全体の不断の見直しを図る。

○教育の質を向上させるため、**成績評価の客観化**を検討する。

○県下の教育現場と連携した教育・研究活動を促進して、地域社会教育活動への寄与を図る。

○学部を卒業したての頭脳と、教育の世界や一般の社会で経験を積んだ人々の叡知とが互いに啓発しあう知的刺激に満ちた環境として、さらには、留学や研究生制度の充実により、多様な研究形態提供する。

○高度専門職業人として、また研究者として学生が必要とする能力を育成するため、常に時代に合った教育課程を検討し、改善を図る。

(2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置

ア 学士課程

① アドミッションポリシー※₁に関する目標を達成するための具体的方策

○全国の高校訪問、出前講座、**オープンキャンパス**※₂、**学生メッセージャー**※₃など幅広い取り組みを通じ、都留文科大学の魅力を受験生に伝えるとともに、社会情勢や受験者の意識等を分析した上で時代に対応した入試方法や体制の更なる充実を図る。

○学生の受け入れ方針、教育方針と実践及び成果に関して大学案内などの広報誌やホームページなどの各種媒体を通じて公表し、周知徹底を図る。

○本学への留学を志望する外国人学生への広報活動を強化する。

指標例

- ・受験者、合格者のセンター試験における水準
- ・オープンキャンパスの実施回数
- ・高校訪問の実績値
- ・学生メッセージャーの実績値

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

②教育課程に関する目標

教育理念と教育目標を達成するため、各学科ともそのアイデンティティーを発揮して目標に即した特色あるカリキュラムの策定や、より実効性のある専門性を涵養する教育課程の更なる充実を追究する上で、総合的な点検・評価を踏まえた教育課程の改善・改革を目指す。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

②教育課程に関する目標を達成するための具体的方策

- 各学科ともそのアイデンティティーを発揮してそれぞれの学科の特質を備えた学生の育成を目標とした特色あるカリキュラムの策定を実施する。
- 文学部5学科の関連性を生かした体系的な教育システムの構築を目指す。
- 外国語教育を実践的なものとするためのカリキュラムの改善に努める。
- 学生の基礎的能力を高めるため、基礎講義の充実に努めるとともに、その教育効果を把握しカリキュラムを柔軟に見直す。**
- 就職に役立つ実践的なカリキュラムを更に充実させる。
- カリキュラムは常に総合性と専門性のバランスがとれた系統的なものとなるよう点検・評価を実施し見直し、時代の要請に応じた内容が提供できるよう努める。**

（ 初等教育学科 ）

第1に子どもの発育・発達や学校の機能についての研究、第2に諸科学や芸術・スポーツ等の文化そのものについての研究、第3に子どもと文化をつなぐ教育方法や授業についての研究という3分野の研究領域を充実させ、広い視野と豊かな教養及び人間性と高い授業技術を身につけた教育のエキスパートの養成を目指す。
広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、併せて高い見識と広い視野を持つ有能社会人及び教育者たるべき人材の育成を目指す。

（ 国文学科 ）

日本の言語や文学に関する専門知識の習得を主目標とし、専門性に裏打ちされた多様かつ柔軟な人材の要請を目指す。

（ 英文学科 ）

コミュニケーションの手段としての英語力の養成をし、英語運用能力を持ち、かつ英米文学・言語・文化の専門知識を身につけた人材の養成を目指す。

（ 社会学科 ）[後日修正]

生活の本拠地として、社会の現実を自らの問題として考え、分析・判断して、問題解決に向け色々な人々と協働できる人材育成を目指す。

（ 比較文化学科 ）

国際化が急速に進行している中で、自己と日本、自己と地域、自己と世界と複眼的な視点から現代世界の動きを理解し、国際社会で活躍しうる人材の育成を目指す。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

③教育方法に関する目標

学習・研究課題を自ら設定し、学習・研究の方法論を身につけるようなカリキュラムを意識し、社会に貢献できる教養豊かで自立した社会人の育成を目指し、実践的、かつバランスのとれた教育内容の充実を目指す。

実社会で活躍する人材の育成を目指す観点から、地域社会との連携を有用に活用するなど、実践的な内容に重きを置いた教育方法の確立に努める。

イ 専攻科

①アドミッションポリシーに関する目標

複雑化する学校教育現場へ実践的に対応できる質の高い教員を養成する場として、学内外を問わず広く専攻科の魅力を十分に周知するとともに、自ら資質の向上を志向し、高い専門性と実践力を持った小学校教員になることを強く志向する学生を受け入れる。

②教育課程に関する目標

学校教育とその実践をめぐる問題をより広い視野から研究できるようカリキュラムの更なる充実を図る。

③教育方法に関する目標

学校教育学を中心とした教育実践の研究を機軸に据え、専攻科生の学習意欲に有益に結びつく教育内容を推進する。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

③教育方法に関する目標を達成するための具体的方策

- 社会や経済の動向を踏まえた教科書・教材、多様なメディアを活用した自学自習用教材の開発を含めた教育改善に努める。
- 学生の勉学意欲の向上に資することも念頭において、成績の評価方法と評価基準に統一的な指針の構築がなされるべく、関係組織での審議を推進する。
- 教員側の教授方法と授業内容、学生側にあっては履修姿勢と勉強方法の双方に向けて多大な効果を挙げるシラバス※5については、授業評価の進展に応じて、さらに実効性のあるものとする。
- 地域社会を実践的教育環境の場として考え、フィールドワークなど積極的に取り入れる中で、人々とのコミュニケーション実践の場の確立など、地域社会との連携を有効活用できる教育内容を検討し実践する。

イ 専攻科

①アドミッションポリシーに関する目標を達成するための具体的方策

- 本大学の特色でもある専攻科をさらに充実させることにより、その魅力を十分に周知する。
- 学内外を問わずアドミッションポリシーにあった学生を広く募集するための有効な手段を検討する。

②教育課程に関する目標を達成するための具体的方策

- カリキュラムは、学校教育の内容と方法の研究に力点を置き、市内小中学校など学校現場での交流や、近隣の小学校や障害児教育の現場等への見学等広い視野に立って、教育学への実践的な関心が深められるよう努める。

③教育方法に関する目標を達成するための具体的方策

- 教育実践の研究・教育を基軸に据え、学校で行われる教育内容・方法を学習の主体である子どもとの接点のもとに研究する。
- 専攻科生の学習意欲に有益に結びつく教育内容を推進する。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

ウ 修士課程

①アドミッションポリシーに関する目標

本学の教育理念・目標等を踏まえた学生像に沿って受け入れ方針を明らかにし、卒業してすぐに大学院に進学する学生や留学生などの志願者の安定した確保に努めるとともに、現職教員や社会人の受け入れの拡大等、募集体制の充実を図る。

②教育課程に関する目標

大学院生の自主性と各専攻の独自性を尊重しつつ、幅広い視野と専門性を習得させるという観点から、教育課程のありかたについて検討を行い、充実改善を図る。

③教育方法に関する目標

高度専門教育として教育すべき事項や、学生の就学目的に応じた適切な内容や方法を常に研究し、整備する。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

ウ 修士課程

①アドミッションポリシーに関する目標を達成するための具体的方策

- ホームページでの入学案内の充実、社会人向けの近隣市町村教育委員会を通じての広報活動、他大学への全国的規模での案内の送付、大学院入試案内誌への掲載等広報活動の充実を図る。
- 本専攻の特色のある教授法を現職教員、及び他大学の卒業生や留学生にも広報活動を広め、現職教員については教員の研修制度に絡める中で新たな募集対象を募る。
- 様々な修学背景を持つ志願者に対応するため入学試験の方法を更に検討し整備していくとともに、その受け入れから修了にいたるまで、十分な配慮を払った教育体系を実施すように努める。
- 学生の安定した確保に努めるべく大学院の研究体制を常に見直し検討する。

指標例

・入学者数

②教育課程に関する目標を達成するための具体的方策

- 「学術の理論及び応用を教授研究し、その奥底を究めて文科の発展に寄与する事を目的とする」とした本大学院の目的に沿って適切な履修指導を**行う**。
- 大学院生の自主性と各専攻の特色を重んじ、履修科目群の設定、履修方法について独自性を持たせながら常にカリキュラムの改善に向け検討していく。
- 現職教員に対するカリキュラムについては、主に実践的問題に対応できる科目を検討し、その修学状況を考慮しできる限り効果的な**指導体制**をとる。

③教育方法に関する目標を達成するための具体的方策

- TA(Teaching Assistant: 授業補助者) 制度^{※7}の一層の推進を図り、学部学生との交流を深める中で自らの知識の確認や社会性及び指導力の養成を**行う**。
- RA(Research Assistnat) 制度^{※8}の導入により学生の研究遂行能力を育成する。
- 修了生からの意見やHP等を通じて教職現場での必要な研究内容等を調査し常に研究内容や研究方法を改善していく。

指標例

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

(3)教育の実施体制等に関する目標

ア 教職員の配置

大学の理念・目的を最適に実現し、魅力ある教育環境の整備を図るため適正な教員数の確保や教員の研修・研鑽を推進する。

イ 教育環境の整備

大学の理念・目的の達成に向け、教育・研究機能を高め、学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るため、時代要請や学生のニーズにあった教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等について、積極的に改善を図り活用を促進する。

地域とともに歩む大学として、地域全体を教育現場と考え、**市民・行政との連携**を図る中で情報の交流の充実を図り、学生をはじめ地域の人々も共に学ぶ場の整備確立が図れるよう努力する。

また、国際交流活動を積極的に推進し、実践的コミュニケーションの醸成が図れるよう努力する。

ウ 教育の質の改善、教育研究システムの改善

組織及び個々の教員の教育活動を定期的に評価する仕組みを構築し、評価結果を確実に教育の質の向上に結び付けられるシステムの整備を図る。FD（ファカルティ・ディベロップメント）※へ組織的に取り組み、更なる教育の質の向上及び改善に努める。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

(3)教育の実施体制等に関する目標を達成するための具体的方策

ア 教職員の配置に関する具体的方策

○各学科の特色にあった適切な教員やTAの配置体制を不断に検討し、機能的な教育研究組織の構成を図る。

○民間企業、行政機関及び各種団体などから積極的に講師の派遣を求め、教育研究指導の一層の充実を図る。

○学生の支援体制については専門職員等の配置を充実させ、様々な状況に応じきめ細やかな対応ができるよう配慮する。

指標例

・カウンセラー等専門職員の確保数

イ 教育環境の整備に関する具体的方策

○都留文科大学の教育・研究機関の中核としての附属図書館の更なる充実、また情報センターをはじめとする既存の各種センターの充実を図り、その有効活用について常に研究し実践的教育、研究の場として活用の活性化を図る。

○都留文科大学の特性を生かした教育体制を整えるべく、**エクステンションセンター**※9など施設設備の計画的整備に当たる。

○外国語教育に関する全学的な人と情報のセンターを目的とした、**外国語教育研究センター**※10の充実により、学会や他大学の経験を生かした研究会の開催、ネット教材を使った学生の自習環境の整備充実を図る。

指標例

・所有図書の本数

・利用状況

ウ 教育の質の改善、教育研究システムの改善に関する具体的方策

○学士課程、専攻科、修士課程の連携を強め柔軟な教育研究システムの構築に努める。

○自己点検・評価の適切な調査システムの構築に向け一層の充実を図るとともに、教員、学生双方に対して授業内容の改善活性化を醸成する措置として、調査結果の有効活用に向け全学的に取り組む。

○FD（ファカルティ・ディベロップメント）※11委員会を中心にその有効活用に向け意識の向上を図る。**その実施予定については、平成22年度を目標とする。**

○学生の自主的・意欲的な学習を喚起するため、GPA(grade point average)制度※12の導入を検討する。

○大学が目指す学習成果、学位授与の方針を明確にするとともに、客観的及び厳格な評価基準の構築と共有化に向け検討する。

指標例

・FD実施予定

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

(4) 学生への支援に関する目標

学生への学習支援、生活支援とともに安全で健康的な学園生活と効果的学習・研究活動を促進するため、生活相談、メンタルヘルスなど総体的に対応できるような支援体制、相談体制の充実を図る。

また、卒業後の職業意識向上のため、学内外においてインターンシップなどのキャリア教育への取り組みをさらに拡充し、就職率のアップを目指し、更なる就職指導体制の強化を行う。

大学からの学内情報や学生生活に関する地域情報など有効な情報提供により、充実した学生生活が送れるよう、情報提供の手段について検討、充実を図る。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

(4) 学生支援に関する目標を達成するための措置

ア 学習相談助言・支援、生活相談の組織的対応に関する具体的方策

○学生の意見収集の場をホームページやオリエンテーションなどの形で設け、要望等を把握し、大学運営に生かす。

○不登校学生への対応を幅広く検討し、カウンセリング専門担当**職員の充実を図る**とともに、学生生活における諸問題の解決に向け早期に対応できる体制を整える。

○学生の勉学上、生活上、就職上の悩みや相談に対応するため、人事体制及び施設整備等、相談体制の更なる充実を図る。

○障害・疾病のある学生に対し、ソフト・ハード両面での支援のための取組を推進する。

○留学生の相談窓口の充実等、サポート体制を整備する。

○学内での人権侵害全般の防止、相談体制の更なる改善を図る。

○憩いの場を通じた情報提供の場の検討、大学HPの充実(地域に密着した大学としての環境の整備一環として、地域情報を周知する事により、地域交流を促す)

イ 就職支援等に関する具体的方策

○教員採用対策、公務員採用対策、民間企業採用対策等の講座及びキャリア開発教育を学内において実施する。

○企業などへのインターンシップの実施など幅広い取り組みを進め、就職率のアップを目指し、学生の就職活動の支援を充実する。

○就職支援のため本学の後援会や各同窓会支部との連携及び組織強化を図る。

○キャリア開発講座やインターンシップ等キャリア教育の更なる充実を目指し、組織的な取り組み及び**キャリアサポート室のセンター化等**環境体制について早期整備充実を図る。

○卒業生の就職後の意識調査(教員であれば現状の問題等)や就職先の各機関等から意見を聞き教育の成果や効果を明らかにし、今後の目標達成への取り組み体制に活用していく。

ウ 経済的支援に関する具体的方策

○新たな奨学資金の獲得に努め、経済的な支援体制を整備する。

○授業料、入学金について減免制度の改善を図る。

○**学生の経済的自立を支援するため、TA及びRA制度の拡充を検討する。**

指標例

- ・インターンシップの実施状況
- ・就職ガイダンスの実施状況

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

学校教育の実践を中心に据えた研究、及び諸学科研究分野において、科学的で、創造性に富む優れた研究成果を生み出し、学術や文化の創造と教育の発展に貢献するとともに、現代社会の直面する諸問題の解決に寄与できる創造的な研究の推進を図る。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

研究の目的を達成するため、研究組織の弾力化と研究者の学外連携・交流を促進し、研究者の専門性が発揮できるよう、RA（研究支援者）の配置、学外研修制度の拡充を含め、研究整備の充実を図る。

研究者は自己点検や客観的評価により、研究活動の状況や問題点の把握を促すとともに、研究の質の向上及び改善を図るためのシステムを整備し、適正に機能させる。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

ア 目指すべき研究の方向性

現代社会における人間・社会のあり方に関わる諸問題の解明と解決を目指して、各研究者が多様な学問分野において基礎的・実践的な研究を行う。

指標例

・研究会・シンポジウムの開催回数

イ 大学としての重点的に取り組む領域

各学科の特性を生かし、先進的・創造的な研究成果を生み出すことを重視する。また、学科横断的な研究も推進する。

ウ 成果の社会への還元に関する具体的方策

学術論文や書籍等の刊行物による研究成果の公表を積極的に行う。また、研究成果をふまえた社会的な提言や地域社会への助言等を奨励する。さらに、大学としてそのような社会的要請に組織的に対応するシステムを整備するための検討を行う。

エ 研究水準・成果の検証に関する具体的方策

研究成果に対するフィードバックを促すために、現場との連携を強化する。また、研究会、シンポジウム等により研究交流の質的・量的な拡大を目指す。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置

ア 研究者等の適切な配置に関する具体的方策

学科における教員構成を適宜見直し、適正な配置になるよう改善を図る。また、大学院生による RA(リサーチ アシスタント:研究支援者)制度を創設する。

イ 研究環境の整備に関する具体的方策

適正な研究費配分のためのシステムの整備及び現行の学外研修制度の拡充を検討する。また、外部資金を活用した学内外での研究活動を奨励する。

研究施設・設備備品等の学内資産については、研究活動と教育活動が有機的に連携できるようなあり方を再検討して、効率的な活用を促進する。

指標例

・RA制度の創設予定年

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

3 社会貢献に関する目標

(1) 教育機関との連携

教育委員会と連携し、教員志望学生の実践教育に関する既存の取り組みの充実を図るとともに、地域の特色ある教育の更なる拡充に寄与する。

教員養成系の大学としてその社会的使命を果たすべく、教員免許更新制における受け入れ体制を整備する。

また、その知的資源を活用し学校教育現場における現代的課題に対し地域の教育相談の充実を図る。

(2) 地域社会との連携

大学に内在する知的資産であるノウハウを最大限に活用し、地域の教育力の向上や、政策形成に深くかかわるとともに、地域との共同的な教育・研究や協力・連携した活動を進めるための本学の拠点である既存の「地域交流研究センター※」を核として、更なる地域貢献活動を推進する。

(3) 国際交流の推進

海外の大学や研究機関との人的交流を全学的に推進し、国際交流を教育・研究に生かす取り組みを推進し、グローバルな視点から物事を考え行動する事ができる能力の育成や、留学希望者に対するサポート体制※の強化など、積極的な展開に努める。また、地域との連携を図りつつ市民レベルでの留学生支援など、地域の国際化の推進に寄与する。

3 社会貢献に関する目標を達成するための措置

(1) 教育機関との連携に関する具体的方策

○市教育委員会、教育研修センターと連携し教員養成大学としての知的資源を活用し、現代的課題に対応する教育相談の充実を図る。

○教員志望学生の実践教育として、児童・生徒の放課後指導やサポートにあたる学生アシスタント・ティーチャー※13の派遣の更なる充実に努める。

○地域イントラネットを活用した中学校・高校との遠隔授業の充実に努める。

○教員免許更新制の実施に向け組織的に検討し、教員として適切な人材の輩出ができるよう、講習内容、受け入れ体制等を十分に研究し、早期充実に努める。

指標例

・学生アシスタントティーチャーの実績値

(2) 地域社会との連携に関する具体的方策

○市民の多様な学びの場として多目的な機能を有する大学・地域連携拠点の整備を図る。

○市民を対象とした生涯学習機会の提供充実に努める。

○大学施設を積極的に開放し、市民、学生、教員の交流を推進する。

○市民を含む地域利用者の知的要求に応えられるよう、施設、所蔵図書資料、情報機器等の設備、調査・相談サービスを広く開放し、その教養形成、研究、学習を支援する。

○現職教員公開講座の拡充、充実に努める。

指標例

・市民講座の実施回数

・大学施設の開放件数

(3) 国際交流の推進に関する具体的方策

○アメリカ・カナダ・中国などの大学との交流を推進するとともに、市民レベルでの留学生支援など交流の輪を広げる。

○アメリカのカリフォルニア大学や中国・湖南師範大学への交換留学、セントノーバード大学への短期留学を利用した海外語学研修プログラムなどの充実に努め、異文化を体験し広い視野から研究を進めることができるよう、それぞれの留学希望を幅広いサポート態勢でバックアップする。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

理事長と学長が相互に連携し、それぞれ経営、教学の責任者としてそのリーダーシップを発揮し、大学の基本的理念と目標に基づき、大学の進む方向を戦略的にまとめ、全学的視野に立った機動的な大学運営を遂行できる体制を実現する。

また、大学を取り巻く環境の変化とそこに起因する大学間競争の激化的に対応するとともに、市立大学でありながら全国各地から学生が集うことによって培われてきた伝統と特色を踏まえ、自主的・自律的に運営されるような仕組みを構築する。

2 教育・研究組織の見直しに関する目標

現代社会のニーズに対応した有用な教育・研究を実践し、優れた成果があげられるよう、柔軟かつ機動的な教育・研究組織のあり方について不断に検討し適切に対応する。

3 人事の適正化に関する目標

教育・研究水準の一層の向上を目指し、時代に則し、安定した大学経営を実現するため、専門性の高い人材の確保・育成、全学的な観点からの適正な教職員の配置により組織の活性化を図る。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 運営体制の改善に関する目標を達成するために撮るべき措置

- 法人経営の実施、時代に即した経営戦略の確立及び、教育研究活動の充実を図るため、各役職の業務分掌と権限を明確化する。
- また、その体制の整備については、全学的な組織力を持って柔軟に対応する。
- 分野ごとに管理運営責任者を設置し、迅速かつ効率的な組織活動を推進する。
- 法人の組織運営を効率的・機動的に行うために教員と事務局職員との協力連携による一体的運営を図るため、体制を強化する。
- 適正で効率的な大学運営のため、内部監査機能の構築の検討を行うとともに、法律に基づく監査制度を活用し、業務の運営に確実に反させる体制を整備する。
- 魅力ある大学の構築を目指し、大学運営に関し学生や市民等への情報開示に努めるとともに、学生の意見を反映させるための仕組みの構築を検討する。
- 国立大学や公立大学等他大学の現状を分析し、本大学における今後の制度改革に向けそのデータの有効活用できるよう、その組織体制の確立に努める。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するためにとるべき措置

- 社会の要求に対応した大学のあり方を点検する組織体制を確立する。
- FDの活動に全学的に取り組みその有効活用により組織体制の不断の見直し、及び改善に努める。
- 教職員間の連携、情報の共有化を図り、大学運営の改善につなげるべく、各種評価・点検の実施について経営・教学について総合的な観点から分析する。

3 人事の適正化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 優秀な人材の確保とその育成を常に志向し時代に応じた人事制度となるように、不断の見直し及び改善に努める。
- 専門性の高い人材の安定した確保を図るため**、業務の特性に応じた任期制など、多様な任用形態と給与制度について検討する。
- 事務組織機能を充実させるため学内外での研修の実施・活用により業務に精通した専門性の高い職員の育成を図る。
- 質の高い教育研究機能を維持しつつ、適切な定数管理を実践する中で効率的效果的人的資源の配分を行う。
- 地域貢献、産学連携等を推進するため、兼業・兼職制限の基準の緩和を図る。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

4 事務等の効率化・合理化に関する目標

効率的、効果的な事務処理を行うため、組織の機能編成の見直しを行うとともに、事務処理の合理化を図る。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 事務業務の点検を行い、業務事業の見直しを進める。
- 人的資源を有効活用するため、事務事業の外部委託の可能性を検討し、可能なものは推進する。
- 各種業務の集中化・電子化等により、事務処理の簡素化、効率化を図る。
- 各種事務事業にかかる業務マニュアルの作成や情報の共有化などにより、各組織の役割を明確化にし、連携強化により円滑な事務処理を図る。

IV 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他自己収入の増加に関する目標

本学の持つ知的、人的、物的資源を最大限に活用し、外部資金の積極的導入等自己収入増加に向けた方法について、組織的な検討体制を整え、これからの大学運営に向け実践的な計画策定を構築する。

Ⅲ財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 公開講座の授業料、施設使用料等、多様な収入源の拡大に向け検討する。
- 地域社会の要求に対応した専門分野の有料の講習・研修制度を実施する。
- 各種団体からの委託業務、地方公共団体等への研修プログラムの提供等、大学の知的財産の活用、施設の有効利用を図る。
- 科学研究費補助金、受託研究、奨学寄附金等外部資金増加に関する具体方策、大学経営戦略などについて、情報収集に努める。
- 現職教員の免許更新制度の導入への対応。

2 経費の抑制に関する目標

教育施設・設備の有効活用、管理業務等の合理化に努め、経費の抑制を図る。

2 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 業務の徹底した合理化・簡素化により、経費の抑制を図る。
- 環境対策にも考慮し意識啓発を行いながら省エネルギーの推進を図る。
- 全学的なコスト意識の向上に取り組む。
- 費用対効果を考慮しながら外部委託を検討する。
- 他大学(主に私立大学)との比較等により事務処理効率の改善を常に検討する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

「(仮称)都留文科大学施設設備計画」に基づき、資産の効率的・効果的・計画的な運用管理を図る。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 土地・建物の資産については、適切な維持・管理を行い、常に最も有効な利用状況になるよう努める。
- 支障のない限り学内施設を開放し、収益を上げるとともに、学外活動や地域活動での有効活用に供する。
- 資金管理については、流動的な観点から常に分析調査を行いながら「(仮称)都留文科大学施設設備計画」に基づき効率的な運用に努める。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

V 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

本学の目的及び社会的使命を達成する観点から、教育・研究指導、組織運営の状況について点検及び評価を定期的に行うとともに、本学研究活動等の状況について自己点検・評価体制、評価方法を充実させる基本方針を策定し実施する。

2 情報公開等の推進に関する目標

本学の研究活動の状況や成果及び大学運営の実態を多面的に明らかにし、広報体制の一層の整備を図るとともに積極的な情報公開に努め、社会に対する説明責任を果たす。

VI その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

本学の基本目標に基づいた、研究拠点の形成に向けた整備として、豊かな自然を生かした美しいキャンパスづくりに努めるとともに、新時代を見据えた中で地域に開かれた大学として、また生涯学習の場として、大学・地域連携拠点の整備・活用を計画的、合理的に進める。

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 自己点検・評価方法の改善に関する具体方策

- 教育、研究、地域貢献及び組織、運営に関して、種々の外部評価を活用しつつ自己点検・評価体制の適正な構築を図る。
- 自己点検・評価システム並びに評価実施体制の全学的取り組みを行う。
- 公平性や透明性が高い評価制度を構築し、教職員の高い志気を維持する。

(2) 評価結果を大学運営の改善に活用するための具体的方策

- 評価結果の収集と管理及び公開について積極的に取り組む。
- 評価結果のフィードバック体制を充実し、教員の教育・研究の改善、各部局等の運営体制の改善等に活用する。

2 情報公開等の推進に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 大学の基本理念、財務状況、中期目標、中期計画、自己点検及び評価の結果等の情報を、広報誌、ホームページ等複数の媒体を利用して公表する。
- 受験生獲得のため、戦略的、魅力的な広報のあり方についての基本方針を策定する。
- 公開講座などの実施により、教育研究成果を公表し、成果の有効活用を図る。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 施設整備の現状を点検調査し、その結果に基づき、既存施設設備の更新、維持・管理や大規模改修、新規施設の建設や、高額機器類の購入について、中・長期的視点に立ち、計画的に実施する。
- 教育研究を行うための良好な施設設備環境を提供することを念頭に、ユニバーサルデザイン、環境に配慮した施設設備の整備を行う。
- 施設設備の利用状況を定期的に点検し、有効活用のための施策を検討する。
- 教育研究に支障のない限り学内施設を開放し、収益を得るとともに、学会活動や地域活動等においても友好的に活用する。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

2 安全管理に関する目標

キャンパスにおける安全と衛生確保のための体制を整備するとともに、緑豊かな自然を活かした環境整備を図るなど、教職員及び学生の安全・衛生・環境保全の意識を高めるための取り組みを積極的に行う。また、個人情報の保護については、取り扱いの適正化に努め、保護体制を充実する。

2 安全管理に関する目標を達成するためにとるべき措置

- 安全・衛生管理を総合的に行う体制を整備する。
- 人権侵害の防止をするため、相談啓発問題解決などに全学的に取り組む体制をさらに整備するとともに、定期的に研修を行う。
- 災害発生時に対応する危機管理マニュアルを作成するなど危機管理体制を整備する。
- 学生及び職員を対象とする健康診断を充実等、健康保持増進のための措置の更なる改善に努める。
- 大学で取り扱う個人情報について、情報セキュリティ対策を講じる。
- 大学施設と隣接する学生の生活環境については、その安全性をキャンパスの一部として考え、整備改善に努める。

※具体策 ・駅前から大学にかけての歩道等のバリアフリー化（点字ブロック、音付き横断歩道の設置等）
・大学周辺の治安改善策として、交番の設置（警察署が統合となったことを考えると大学生をはじめ、高校生、中学生の利用も多いと見られる文大駅周辺に必要と考える。）

VI 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算

(1) 平成21年度～26年度 予算

[人件費の見積もり]

(2) 運営交付金算定ルール

2 収支計画

3 資金計画

VII 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

2 想定される理由

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

IX 剰余金の使途

XI 市の規則で定める業務運営に関する事項

○用語の解説

- ※1 アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）
大学が受験生に求める、能力、意欲、適正経験などについて、大学の考えをまとめた基本的な方針。
- ※2 オープンキャンパス
入学希望者を対象とした説明会や学校見学会。学校施設を見学してもらいながら、学部・学科の紹介、卒業後の進路、入試情報などについて詳しく説明。
- ※3 学生メッセージャー
在学生及び卒業生において、地元出身地への都留市の魅力紹介を、メッセージャーとして委嘱することで情報発信の活性化を図る。
- ※4 インターンシップ
学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就職体験を行うこと。
- ※5 シラバス
授業科目、担当教員名、講義目的、講義概要、毎回の授業内容、成績評価方法、教科書や参考文献、その他履修する上で必要となる要件について記した授業計画のこと。：2003文部科学白書
- ※6 リカレント教育
いったん学校を卒業して社会に出てからも、必要に応じてまた学校で学習する事が可能であるような教育システムのこと。
- ※7 TA(Teaching Assistant)
大学院教育及び学部教育の充実並びに当該学生本人に教育の経験を積ませるため、大学院に在学しながら教育の補助を行う者をいう
- ※8 RA(Research Assistnat)
大学における研究支援体制の充実、強化並びに若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、研究プロジェクト等において大学院博士課程及び博士後期課程に在学しながら研究の補助を行う者をいう。
- ※9 エクステンション・センター
オープンカレッジ・公開講座・受託講座等を展開することにより、大学の知的財産を地域社会に還元すると同時に、学生にも正規の科目とは別に自由時間を利用して多様な知識や技術を身に付けてもらう事を目的として設立する市民生涯学習の場。

公立大学法人都留文科大学中期目標（案）

公立大学法人都留文科大学中期計画（案）

※10 外国語教育研究センター

学会や他大学の経験を生かした研究会の開催、ネット教材を使った学生の自主学習の環境の整備等、外国語教育を充実させるための外国語教育に関する全学的な人と情報のセンター。

※11 FD(ファカルティ・ディベロップメント)

教員がより質の高い教育を提供できるように授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。その内容としては、教育内容・技術や学生の学習評価についての研究会の開催や、教員相互の授業参観の実施、新任教員に対する研修会の開催などがある。

※12 GPA(grade point average)制度

授業科目ごとの成績評価を5段階(A,B,C,D,E)で評価し、それぞれに対して4, 3, 2, 1, 0のようにグレイトポイントを付与し、この単位あたりの平均を出して、その一定水準を卒業の要件などとする事):2003文部科学白書

※13学生アシスタント・ティーチャー

教員志望学生の実践教育として、児童・生徒の放課後指導やサポートに当たる学生。